

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
名古屋ウェディング&ブライダル専門学校	平成25年4月1日	古淵 泰弘	〒451-0042 愛知県名古屋市中区那古野2-13-12 (電話) 052-541-3300																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
衛生	衛生専門課程	ブライダルヘアメイクアンドドレス科	平成27年文部科学省告示第13号																							
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、ブライダル業界の関連分野において、活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技能を教授することを目的とする。																									
認定年月日	平成28年2月19日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	62	41	48	10	-																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
160人	162人	1人	15人	15人	30人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～4月10日		卒業・進級条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、三者面談、校内カウンセリング		課外活動																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ウェディングプランナー・ブライダルコンセルジュ・サービススタッフ・ホテルブライダルスタッフ・ウェディングハトラー		主な学修成果(資格・検定等)※3																							
	■就職指導内容 就職ガイダンス、履歴書・面接指導、個別相談等																									
■卒業者数		91	人	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アシスタントブライダルコーディネーター検定</td> <td>③</td> <td>88人</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルメイク検定</td> <td>③</td> <td>41名</td> <td>34名</td> </tr> <tr> <td>認定ドレスコーディネーター</td> <td>③</td> <td>97名</td> <td>96名</td> </tr> <tr> <td>花嫁着付け免許</td> <td>③</td> <td>36名</td> <td>36名</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	アシスタントブライダルコーディネーター検定	③	88人	65人	ブライダルメイク検定	③	41名	34名	認定ドレスコーディネーター	③	97名	96名	花嫁着付け免許	③	36名	36名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
アシスタントブライダルコーディネーター検定	③	88人	65人																							
ブライダルメイク検定	③	41名	34名																							
認定ドレスコーディネーター	③	97名	96名																							
花嫁着付け免許	③	36名	36名																							
■就職希望者数		83	人																							
■就職者数		78	人																							
■就職率		93.9	%																							
■卒業者に占める就職者の割合		85.7	%																							
■その他 ・進学者数: 8人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																						
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成29年4月1日時点において、在学者207名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者201名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見、解決する。 ・欠席が続く生徒については、早い段階で保護者へ電話連絡をして保護者の協力を仰ぐ。 ・入学前と入学後のギャップを埋めるため、入学直前に入学予定者向けと保護者向けに学校生活や実習、就職等に関する説明会を実施している。		■中退率 2.9%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/> 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度・経済支援制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 <input checked="" type="radio"/> 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/">http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/</a>																									

(留意事項)

- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
 ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者(進学者)、「進学者」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
 ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
 (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
 ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
 ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者を含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
 (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進
- 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や 授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

実習先である企業に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は名古屋ウェディング & ブライダル専門学校と企業関係者等の役職者から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】

企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。

さらに、前年度の問題点をピックアップし、企業関係者等の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。

↓

【教育課程編成の科目詳細決め】

委員会構成員の中の名古屋ウェディング & ブライダル専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓

【WB委員会(各ウェディング & ブライダル専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】

委員会構成員の中の名古屋ウェディング & ブライダル専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、WB委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大塚 淳夫	有限会社ビバーチェ 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③
永田 太	株式会社ホテルグランコート名古屋	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③
小原 義之	全米ブライダルコンサルタント協会アジア統括代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年、年に2回実施するものとする。ただし、委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れることが出来るといった弾力的な体制を取っている。

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年6月13日 11:00～12:30

第2回 平成31年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業が求める実践力を備えた人材へ向けて「現場が求める社会人基礎力」の育成観点及び今後必要になってくる要素としてコミュニケーションスキルの向上等の意見について、各授業での生徒指導方針への追加を実施。また、インターンシップ実習がより充実するように、生徒の経験を生徒同士で共有、ディスカッションを実施し、今後につながるようなカリキュラムになるように後期より追加。

今後更なるカリキュラム(教育課程)の編成に向けて取り組んでいる。なお、2019年度生よりカリキュラム変更を行うべく検討委員会を設置。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基本方針として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1のプランナーを育成する」という本校人材育成方針のもとブライダル業界等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。

ブライダル業界においては知識と接客力が重要であるということは不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することで、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対する対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業科目「着付け」において1年間の授業を通して実施。ブライダル業界において企業の方より、実践力を想定し、日本古来より婚礼に欠かせない「着物」に関する知識・技術を習得。そして授業を通してブライダル業(サービス業)に欠かせない挨拶・マナー・言葉づかいなどの礼節並びに振る舞い・行動など所作を身につける。

定期的に授業内での内容・実技試験などを含め、振り返りを実施し、企業様からの評価を成績評価に反映させる。また、定期的に授業シラバスや1年間の流れ・生徒の様子を共有し、改善点等協議している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
着付け	日本における美容文化である着付けの技術を学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。日本の美容文化への意識及び技術習得の必要性を認識し、向上心を養う。	ピアスグループ クレディアワールド株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、ブライダル業界・教育業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」・「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1のプランナー」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修

・指導力の修得・向上のための研修

・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダルマーケットの今後と求められる人材像」  
(連携企業等:ブライダル産業新聞 取締役編集長 池田 義信様)

期間:8月23日(木) 対象:担任

内容:今後のブライダルマーケットの現状を把握し、今、ブライダル業界から求められる人物像を学ぶ

研修名「ブライダルの専門学校に求める人材と現状」(連携企業等:株式会社マリエ 杉森 蓮生様)

期間:8月31日(金) 対象:全教員

内容:ブライダル専門学校に、実際、現場として何を求め、卒業させてほしいのかを具体的に学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「現代社会と若者の実態」(連携企業等:佛教大学教育学部教授 原 清治様)

期間:4月2日(月) 対象:全教員

内容:現代社会において、現代の若者の実態を把握し、学校として教育者としての対応の仕方を学ぶ

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界のトレンド研修」(連携企業等:ABC協会 小原 義之様)

期間:10月1日(月) 対象:担任

内容:ブライダル業界の現在のトレンドを学び、授業や生徒の就職へ生かすことができる

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、ブライダル業界の企業様や卒業生・地域団体住民・高校関係者等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(3) 教育活動の『授業評価の実施・評価体制はあるか』について、卒業生目線で感じたこととして、最初担任から動機付けをされるが、直近ではない授業アンケート時には、その重要性を忘れていることが多いとの指摘があったため、次回からは毎回、毎回のアンケート時にしっかりと動機付けをすることが決定され、よりよい結果が得られるように改善することとなった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大塚 淳夫	有限会社ビバーチェ 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
水澤 順一	飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	高校教員
杵山 茜音	-	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/pdf/kankeisyahyouka\\_nagoya.pdf](http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/pdf/kankeisyahyouka_nagoya.pdf)

公表時期: 2018年7月27日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。

また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。

そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●企業・地域のつながり ●インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●特別ゼミ
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書 ●賃借対照表 ●財産目録
(9) 学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/>

授業科目等の概要\_1

(衛生専門課程ブライダルヘアメイクアンドドレス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダル知識Ⅰ	婚礼の歴史や挙式・披露宴の基礎知識を学び、「アシスタントブライダルコーディネーター検定」取得を目指します。	1年	33	2	○			○		○		
○			パーソナルカラー	ファッションコーディネートで即戦力となれるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に付ける。	1年	33	2	○			○		○		
○			ブライダルビジネスマナー	敬語の使い方、履歴書の書き方やビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ。	1年	33	2	○			○			○	
○			ベーシックメイク	ベーシックメイク検定対策、基本的なメイクの手順、骨格や肌の構造等を学びフルメイクの基礎メイクテクニックを学ぶ。	1年	99	6	△	○		○		○	○	
○			ブライダルプロジェクトⅠ	日頃の授業のアウトプットとして現場体験ができる行事を取り入れ、企画立案施行の全てが出来るようにする。	1年	66	4	△	○		○		○		
○			ブライダルヘアアレンジⅠ	一束やピンニング、ホットカラーや編み込み等ヘアアレンジの基礎からベーシックなアップスタイルを学ぶ。	1年前期	48	3	△	○		○		○	○	
○			ブライダルネイルⅠ	JNECネイリスト技能検定3・2級級取得を目指し、基礎的なネイルケア～カラーリング・アートや簡単な付け爪(チップラップ)まで学ぶ。	1年	82	5	△	○		○			○	
○			未来デザインプログラムⅠ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1年	33	2	○			○		○		
○			フラワーアレンジ	ウェディングに人気の花の種類・値段・ブーケ・装花のスタイルと作成技術を学ぶ。	1年前期	48	3	△	○		○			○	
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要\_2

(衛生専門課程ブライダルヘアメイクアンドドレス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ドレス デザイン	『認定ドレスコーディネーター』検定の取得を目標にドレススタイリストに必要な技術・知識を学ぶ	1年	66	4	○	△		○			○	
○			ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	1年 2年	66	4	○			○		○		
○			花嫁着付けⅠ	一般的な着付とは違い、特殊な婚礼和装の着付を学び、婚礼和装の帯など名称も学ぶ	1年	99	6	△	○		○			○	○
○			アテンダー 実践	結婚式当日、新婦様の一番近くでお世話をするアテンドの知識を学ぶ授業。ドレスのトレーンの持ち方・ブーケの持ち方など新婦様を堂に美しく見せる見せ方を学ぶ	1年前期	32	2	△	○		○		○		
	○		ブライダル ヘアアレンジ Ⅱ	和装や洋装、年代に合わせたヘアメイクをデザインし相モデルで行うなど幅広いアレンジを学ぶ。	1年後期	51	3	△	○		○		○	○	
	○		ブライダル メイクⅠ	アドヴァンス検定、スキンケア、トラブルメイク、チェンジ（タイムアップ含む）	1年後期	51	3	△	○		○		○	○	
	○		ドレス フィッティング	ドレスの着せ方・ドレスショップでの新規接客の方法を学び、即戦力を身につける	1年後期	34	2	△	○		○			○	
	○		ドレス ソーイング& メンテナンス Ⅰ	ドレスのお直し・タキシードの裾上げなどドレススタイリストの裏側の仕事を学ぶ	1年後期	34	2	△	○		○			○	
	○		ブライダル ヘアメイクⅠ	基本的な道具の使い方を学び、ヘアアレンジの基礎～花嫁洋装スタイルのクラシカルスタイルを学ぶ。	1年後期	34	2	△	○		○		○	○	
合計					科目	単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要\_3

(衛生実務専門課程ブライダルヘアメイクアンドドレス科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			マーケティング	ブライダル業界の動向とお客様のニーズを研究・発表する。	1年前期	16	1	○			○		○			
○			ブライダル実務Ⅰ	現場での実習勤務を通して、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢・実践力・応用力を学ぶ	1年後期	68	4			○		○				
○			ブライダル知識Ⅱ	新規接客・アンケート記入・質問・顧客心理・館内案内・敬語等、設定した客層への対応方法を学びます。	2年	50	3	○			○			○		
○			ブライダルプロジェクトⅡ	日頃の授業のアウトプットとして現場体験ができる行事を取り入れ、企画立案施行の全てが出来るようにする。	2年	66	4	△	○		○			○		
○			ブライダルネイルⅡ	1年次に学んだネイルアートⅠの技術向上とジェル検定初級取得を目指す。またブライダルネイルで使えるアートなどの技術を学び作品制作を行う	2年	66	4	△	○		○				○	
○			未来デザインプログラムⅡ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	2年前期	16	1	○			○			○		
○			ブライダル実務Ⅱ	現場での実習勤務を通して、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢・実践力・応用力を学ぶ	2年	98	6			○		○				
○			花嫁着付けⅡ	一般的な着付とは違い、特殊な婚礼和装の着付を学び、婚礼和装の帯など名称も学ぶ花嫁着付けⅠより、高度な技術を学ぶ	2年	99	6	△	○		○				○	○
○			ブライダルエステ	ブライダルエステの基礎知識・技術を習得する ・フェイシャル、ボディ技術理論 ・フェイシャルケア・ボディケア	2年	66	4	△	○		○				○	
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要\_4

(衛生実務専門課程ブライダルヘアメイクアンドドレス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ブライダルメイク&フォト	アドバンス検定対策と撮影用メイクを学び、カメラのファインダーを通した、メイクの仕上がりを学びます。	2年	99	6	△	○		○	○			
	○		洋装・和装メイク	洋装・和装の花嫁メイクの基礎から応用、列席者のメイクやボディージュエリーなどの流行まで取り入れた結婚式の幅広いメイクを学びます。	2年	99	6	△	○		○	○			
	○		ドレススタイリング	ドレスのデザインや装飾などを理解し、的確なフィッティングやドレスに合ったヘアメイクなどのスタイリングを考える授業	2年	66	4	△	○		○			○	
	○		ドレスコーディネート	ドレススタイリストに必要な知識を活用して、着る人の体型やTPOに合わせたコーディネートを考える授業	2年	66	4	△	○		○			○	
	○		ドレスソーイング&メンテナンスⅡ	ドレスのお直し・タキシードの裾上げなどドレススタイリストの裏側の仕事を学ぶ	2年	66	4	△	○		○			○	
	○		ブライダルヘアメイクⅡ	和装や洋装、年代に合わせたヘアメイクなど、幅広いアレンジを学びます。	2年	66	4	△	○		○		○	○	
	○		ブライダルメイクⅡ	検定対策、お色直し、メンズトータルコーディネート、列席者ヘアメイクなど、式に関わるトータルヘアメイクを学びます。	2年	99	6	△	○		○			○	
○			ビジネスメール演習	アクセサリーや小物など、1年次に学んだ知識を元に実際に作成する	2年	66	4	△	○		○		○		
○			施設実習	現場での実習勤務を通して、1日及び1週間の流れを学び、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢を学んでいく	2年後期	34	2			○	○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要\_5

(衛生専門課程ブライダルヘアメイクアンドドレス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ブライダルヘアアレンジⅢ	ブライダルのクイックチェンジやお色直しの際に行う様々なヘアチェンジに対応出来る様に相モデルでより実践的に学ぶ。	2年	99	6	△	○		○		○	○	
		○	文化・教養の学習A	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・保育・福祉など)	1年前期	20	1				○		○		
		○	文化・教養の学習B	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・保育・福祉など)	1年後期	20	1				○		○		
合計			38 科目			1732単位時間( 107 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>【履修方法】</b> ●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。 実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。 各科目授業内テスト(実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施)の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。 <b>【進級・卒業要件】</b> ●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。 単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。単位制学科の卒業認定に必要な単位数は62単位とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週 後期17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。